明化の教育

５月号（第５１１号）
令和５年４月２８日
文京区立明化小学校
校 長　　熊 倉　　勝

子供との信頼関係を築くために必要なこと

校長　熊倉　　勝

全校児童が一堂に会して実施された１年生を迎える会は、心が通い合う温かな会となりました。

「明化の子どもはやり通す」全校の子供たちの元気な声が、体育館に響き渡ります。明化小学校の１週間の始まりです。集合しての全校朝会は４年ぶりのため、最初のフレーズ「明化の子どもはやり通す」は、なかなかそろいません。でも次のフレーズ「やり通すこころとからだ」では、声がしっかりそろうのです。それは、互いを思う気持ちがあるからだと考えます。子供たちの対応力は、素晴らしいものです。このようなことは、子供たちが対面しないとなかなかできません。子供たちが同じ空間を共にすることで、自らよりよくしようとする力が発揮されたのだと思います。今年度は、このような交流の場を数多く作り、子供の力を伸ばしていきたいと改めて感じた一場面です。

さて、４月は「教育の基盤は信頼関係に支えられた人間関係」を基に子供との信頼関係作りに力を入れてきました。そのための手だては、多種多様にあり、教員一人一人の個性によって違ってよいと思っています。その中で一般的に毎日続けられ、子供の意欲を高めるものを３つ紹介します。

１【話を最後まで聞く】

子供は、「こうしたい」、「これが辛い」、「もっとこうなったらなあ」など、子供なりに『自分の思い』をもっています。本当の思いが大人に伝えられて、それを大人が理解し、寄り添える場面が増えると子供は大人を信頼するようになります。子供は最後まで話を聞いてもらえるだけでも、辛い気持ちがある程度は解消されます。たとえ解決できなくても、十分に効果があります。

２【まずは全てを受け入れる】

子供は 「できることならいつも頑張りたい」 と思っています。それでも頑張ることができないのには原因があります。その原因をサポートすることが大切です。頑張ることができない理由がなくなれば、前向きに取り組むことができるようになります。全てを受け入れるとは、あくまでもその時の感情、例えば、「〇〇が辛いよ」「〇〇してほしかったよ」といった、その子の心の中の思いを否定することなく、一旦受け入れるということです。大人が子供を受け入れることで、子供が落ち着き、大人の話をしっかりと聞けるようになってから学ばせるとよいと考えます。子供は冷静になれば、何が正しいことか、間違ったことかを大人と共に考えることができるからです。

３【「ありがとう」を伝える】

「褒めるのはよいこと」とよく言われますが、褒めると言っても伝え方次第で効果は大きく変わります。せっかく褒めるのであれば、効果的な言葉を付け加えるとよいと思います。人は「自分の行いが人によい影響を与えている」と感じることで前向きになれます。そのための言葉として「ありがとう」はとても効果的です。 いつでも簡単に使えるとてもよい言葉です。そこで、「ありがとう」を使った具体的な褒め方の例を２つ紹介します。「困っている友達の面倒をよくみてくれたね。先生の代わりになってくれてありがとう。」「ゴミ箱を動かして、しっかりほこりを取ってくれたおかげで教室がとってもきれいになったよ。ありがとう。」 です。ポイントは『自分の行いが相手によい影響を与えている』と感じさせることです。そうすることで、子供は自己有用感が高まります。そして、自分は必要な存在と感じるので、様々なことに前向きに取り組むきっかけとなります。

大切なことは、子供の気持ちに寄り添うことだと考えています。子供たちとの信頼関係を築くことを基に、子供たちが笑顔で毎日喜びと期待をもって登校できるように力を尽くして参ります。